

令和6年度 長沼小学校グランドデザイン

- 【長沼小の子どもたち】**
- 素直、まじめ、優しい、恥ずかしがり
 - 固定集団で人間関係が深い
 - 活用力を問う問題が苦手
- 【長沼小の保護者・地域】**
- 学校に深い思いをもち、協力的
- 【長沼小の職員】**
- チームワークがよく熱心で前向き

教 育 目 標

**豊かな知性と人間性をそなえた
健全で実行力のある子どもの育成**

- 【福島県教育委員会】**
「福島ならではの」を生かした
多様性を力に変える教育
福島で学び、福島に誇りを持つことが
できる「福島を生きる」教育
- 【県中教育事務所】**
「ゆめ」「願い」がかんう教育の推進
- 【須賀川市教育委員会】**
変化の大きい社会に的確に対応できる
「生きぬく力」を育む

経営方針

児童第一の学校 安全な学校 みんなで作る学校

つながりながら学ぶ子	美しい生き方を考える子	自分の心と体を育てる子
目標とする指標 学力調査の正答率が全国平均と同等又は上回る	目標とする指標 アンケートの関係項目の結果が90%以上	目標とする指標 健康調査、新体カテスト結果の前年度比UP
ア 学び合う授業づくり ・45分学び続ける授業の実現 ・聞く力を伸ばす仕掛けと実践 ・子どもから学ぶ授業研究の実践 イ 自ら学ぶ基盤づくり ・ICTを活用した学習の充実 ・学び直し、解き直しの習慣づくり ・家庭学習の内容・方法の充実	ア 児童理解をもとにした指導 ・児童の人権を尊重する学級づくり ・安全安心な学級づくり イ 豊かな心を育む指導 ・考え議論する道徳科の授業実践 ・特別活動の充実 ウ 子どもファーストのいじめ対応・不登校支援 ・組織的に行ういじめ・不登校の未然防止、早期発見、きめ細かな対応	ア 健康教育の充実 ・「早寝・早起き・朝ごはん+朝ウUNCH」運動の推進 ・メディアコントロールへの声掛け イ 体力向上にむけた指導の充実 ・運動身体づくりプログラムの実施 ウ 安全指導の充実 ・危機意識を育てる具体的・適時性のある指導 ・危険を予知し、自らの命を守る力の育成
【評価】 <input type="checkbox"/> 学力調査、各単元テスト等による到達度の把握 <input type="checkbox"/> 児童の自己評価・相互評価の実施 <input type="checkbox"/> 学校評価アンケートによる検証	【評価】 <input type="checkbox"/> このごろのぼくわたしアンケートの実施と早期対応 <input type="checkbox"/> QUアンケートの実施・分析 <input type="checkbox"/> 学校評価アンケートによる検証	【評価】 <input type="checkbox"/> 新体カテストの実施・分析 <input type="checkbox"/> 学校保健委員会等での意見聴取 <input type="checkbox"/> 学校評価アンケートによる検証

<p>安心・安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険等発生時対処の共通理解 ・潜在危険の除去 	<p>幼小連携 小中一貫教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒、教員の交流の推進 ・保護者、地域への情報発信 ・地域行事への積極的参加 	<p>特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的支援 ・合理的配慮 ・関係機関との連携 	<p>学習環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余剰教室の活用 ・掲示環境の充実 ・校庭整備 	<p>働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康管理のための適正な休養 ・時間の確保 ・事務的業務の効率化
--	---	---	---	--

保護者・家庭・地域との連携	目標とする教師像
ア 学校の情報発信 ・たより、家庭訪問、電話、メール、ホームページ等を活用 イ 保護者・地域からの信頼獲得 ・保護者、地域の方への丁寧で、誠意ある対応 ・地域行事への協力 ・保護者、地域の方への呼びかけ、相談	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童個々の力を最大限に引き出すことに真摯に心を砕き、組織的に職務を遂行する。 ○ かけがえのないお子さんを預かっていることを深く自覚し、事故を防止し、人権や心を大切にされた教育ができる。 ○ 自校の児童を全職員が担当しているという責任感を自覚して日々の教育活動にあたる。 ○ 児童個々の持つ力を十分引き出す技術を獲得するために、謙虚に自己研鑽に努める。 ○ 保護者、同僚、関係機関と助け合い、組織の力で問題を解決していくことができる。